

# しづ老施協

巻頭言

## 「在宅サービス事業者としての役割」



静岡県老人福祉施設協議会

在宅委員会 委員長

溝口 宣弘

誠に僭越ではありますが、今期、県老施協在宅委員会委員長として務めさせて頂いております。会員及び委員会委員の皆様には、これまでの間にも、多大なご理解ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成24年度介護保険法改正により、従来から審議されておりました「地域包括ケアシステム」の構築、推進が規定され、県及び市町においても、それぞれの保健福祉計画等に、そのための施策が謳われているところです。利用者が、必要とするサービスを、身近な、日常生活圏域の中で受けられる事業体制整備と、相互のサービスを繋ぐネットワークの構築が急務となっておりますが、人材の確保、充足をはじめ、多くの課題も内在しております。施策を進める上で、中心的役割が期待される「地域包括支援センター」におきましても、虐待等権利擁護事案の個別ケースの対応に追われ、大局的な事業推進に、なかなか時間を費やせない状況にあるようにも見受けられます。私たち介護保険事業者も、日々、ご利用下さる利用者への良質なサービス提供、関係法令に基づいた事業経営に右往左往している現状ではありますが、このような大きな流れを、十分に認識し、事業の方向性を見出していくかなければと痛感しております。

ご案内のとおり、在宅委員会は、デイサービス事業に特化した委員会ではなく、様々な種別の在宅事業の推進に係る諸課題、提案、情報の取り纏め協議の場であります。「地域包括ケアシステム」の構築にとって、

在宅事業者は大きな役割を担う立場であり、前委員長の言葉をお借りすれば、「地域の皆様の、介護の一端を担うだけでなく、生活を左右する事業であること、地域、利用者に於いてアンテナの役目を持ち、利用者が必要とする在宅サービスという視点で、生活実態、実情に即した支援を提供する」ことが一層求められているものと認識しなくてはならないのではないかでしょうか。

一方、今回の報酬改定は、例えば「通所介護の時間単位報酬の見直し」にもありますように、事業経営に大きな影響を来たしていることも現実です。今年度、当委員会では、会員の皆様に対しまして、状況調査アンケートを実施させていただきました。その中の設問にも、当該項目について、従来の経営内容からの移行状況を収集すべくご回答をお願いした経緯がございます。また、その他の設問におきましても、各事業種別での報酬改定による影響、見直しの実態を伺いたい旨の内容とさせていただきました。制約条件が厳しさを増す中であるからこそ、会員相互で情報を交換、共有し、各所に創意工夫を取り入れていくことが必要ではないかと考えております。

最後になりますが、12月に開催させていただきました「在宅サービス研修」には、各事業所から107名の参加者を募ることができましたことに、改めて感謝申し上げるとともに、今後の在宅委員会運営に対しまして、会員皆様の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。（特別養護老人ホーム「かけがわ苑」施設長）

## 特集 1

### [第4回高齢者福祉研究大会優秀発表事例の紹介] その2

前号に引き続き優秀発表者の皆さんから報告していただきます。

#### 運動器機能向上プログラムの取り組みとその効果

土肥デイサービス

介護福祉士 土屋 真弓

土肥デイサービスでは、平成19年度より運動器機能向上プログラムのサービス提供を開始しました。そのサービス提供に向けた取り組み経過として、平成17年度運動器プログラムについての意識を高める為、外部の先生をお招きし全体研修会を開催しパワーリハビリの概念を学びました。その際部分的に筋肉に負荷を掛ける事で無理なく運動できる事を知り、運動による効果についても学びました。

その研修を活かし、平成18年度伊豆市委託事業の特定高齢者を対象にしたアクティビティ事業にて、試験的にチューブを使用した運動プログラムを取り入れてみました。利用者にも好評で楽しんで運動に参加する姿が見られましたが、チューブを結んだり解いたりする行為が煩わしい様子が見られていました。そこで、チューブに変わるピラティスピールを使った運動プログラムを、平成19年度より要支援の方にサービス提供を開始しました。健康づくりはデイサービスからを合い言葉に、自分のしたい事への実現の為、個々の目標に向け、実際の生活の中でどの場面で使うかの説明をしながら実施しています。

そんなプログラムの提供も6年目を迎え、利用者にもプログラムが定着してきました。そこでどんな効果が現われているか プログラムの効果について調べる為、①ファンクショナルリーチ〔動的バランス感覚〕②体前屈〔柔軟性〕③握力〔握る力〕④Timu up go〔複合運動能力〕の4種類の評価項目について3ヶ月ごとの数値を1年間集計して見ました。①の動的バランスについては1年後に60%の方の改善維持が見られ、②の柔軟性については1年後平均40%、③の握力については1年後80%、④の複合運動能力については早期に効果が現われる事が分かりました。また個人のケースとして92歳の要支援2の方、平成21年に自宅で転倒され少し運動をお休みされましたが、運動再開後再び数値が上昇され、転倒前のように現在も自宅付近の散歩を続けられています。

今後も健康づくりはデイサービスからを合い言葉に、更なる運動器の向上を目指し利用者の健康づくりを応援して行きたいと考えています。



#### 粒々かゆ

特別養護老人ホーム いづテラス

管理栄養士 水谷衣里

咀嚼は、脳の活性化など様々な影響をもたらすとされています。今回、いづテラスでは、1つのミスをきっかけに、施設全体で咀嚼機能について、考える事ができました。

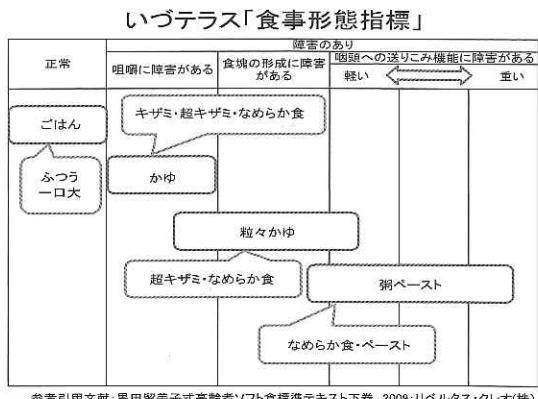
ある日、粥ペーストを作る時、お米の粒々が残った状態の粥ペーストを作ってしまいましたが、ユニット職員からは高評価で、食事形態の一つとして「粒々かゆ」の提供を開始しました。

対象者となる入居者k様は、生活全般全介助対応で、嘔吐しやすく、誤嚥性肺炎を繰り返し発症していました。しかし提供後、食事摂取量の増加・体重の維持がみられ、バイタルも日々安定してきました。

k様に粒々かゆがなぜ適していたのか改めて検討する為、職員間で粥ペースト・かゆ・粒々かゆの試食と咀嚼・嚥下に関するアンケートを行ないました。結果、粒々かゆは咀嚼回数や食感の面で、3種の中でも中間くらいの立ち位置でした。

また、かゆは、米粒と水分が分離しむせやすい物になっていたと思われます。かゆのような不均質なものは、お米独特のでんぶん質を活かし、一部をペースト状にすることにより、まとまりやすくなり、飲み込みやすくなるということがわかりました。粒々かゆは、咀嚼機能が低下した方に対して食べやすいものになっていたのです。

k様にとって、噛んでいる・食べているという実感



が生まれたのだと思われます。

今回、主食の見直しを行なっていくために、研修の資料をもとに当施設の食事形態の組み合わせを指標として作りました。

粒々かゆが存在していない時は、粥ペーストか、かゆしか選べない状況でした。粒々かゆを提供することにより、咀嚼機能を維持するサポートができていると思います。粥ペーストとかゆの中間くらいに粒々かゆが存在することが、当施設にとってとても大事な事であることが、改めてわかりました。

粒々かゆが、一時でも、咀嚼機能を維持できるのであれば、今後も粒々かゆの提供を続けていきたいと思います。

## 認知症の方と信頼関係を築くために

特別養護老人ホーム 静光園

介護主任 建部 泰亭

私が所属する2Fフロアは認知症の利用者が多く、帰宅願望をきっかけに不穏になる方が少なくありません。その方たちの介護をしてきて、これまでの声掛けが本当に正しかったのか？もっと適切な対応があったのではないか？と、疑問に思うようになりました。

研究発表の話があったとき、自分のフロアの特徴を生かした取り組みが出来ないかと思い、帰宅願望のある認知症の方を対象に、不穏時の対応から落ち着いた生活が送れるまでの過程を研究内容として考えてみました。そこで不穏になる利用者Tさんを観察していくと、ご家族と一緒に時には穏やかであったり、対応する職員によって表情や雰囲気が変わることに気が付きました。

そのことから、認知症の利用者と対応する職員との信頼関係が不穏に大きく影響しているのではないかと感じ、研究テーマを『利用者との信頼関係を築くことによって不穏状態を緩和する事ができるのか？』とし

て、この課題に取り組んでみました。

方法としては、経験年数の違う4名の介護職員に自分の興味がある利用者や苦手とする利用者など、認知症であることを条件として対象者を選んでいただき、信頼関係を築く為に用意した『3つの課題』と『目的』を理解したうえで実践してもらいました。

職員に実践していただいた『課題と目的』は次のとおりです。①出勤したら対象者に挨拶をする⇒顔見知りの関係を作る。②挨拶や声掛けをする時は腰を落として相手と必ず目線を合わせる⇒自分の事を知ってもらう。③相手に合わせてゆっくりと丁寧に話す⇒相手の気持ちを察する。

一ヶ月後、驚きの反応と結果が…。4名の職員から一様に、対象者に選んだ利用者が不穏にならなくなつたとの意見が挙がりました。他にも、苦手だった対象者が好きになっていった。話しかけると笑顔で答えてくれるようになった。不穏になる前に対応することができるようになった等々、想像以上の成果を得る事ができました。

利用者にとって、職員との関係が生活に大きく影響している事がこの取り組みでよくわかります。利用者には職員も環境の一つであることを多くの職員に知っていたり、「この職員がいれば安心」と感じていただけるそんな職員が1人でも多くいたら、利用者の生活はどんなに居心地がよく素晴らしいものになるでしょうか。

この3つの課題は簡単にできることばかりですが、実際には出来ている人は少ないと思いま



す。何故なら、思いはあっても多忙な業務に追われて利用者の前で足を止める事が出来なかったり、職員の心にゆとりが無かったりして、利用者の側で寄り添っていることが難しいからです。

この課題に取り組んだ職員は、その後利用者との関わり方が大きく変化しました。職員を変えたのは、課題ではなく利用者の反応と笑顔です。人の性格や心を変えるのはとても難しいことです。しかし、介護者を変えるのは意外と簡単なように思います。利用者の喜びが職員の喜びに繋がっていることに気付けばいいだけなのですから…。

どんな時もどんな方に対しても、一人ひとりの利用者と丁寧に関わることの大切さを、これからも介護者として伝えていきたいと思います。

## 特集 2

# 「介護の日」街頭啓発活動について

「介護の日」は、介護への理解と認識を深めていただくための日として、平成20年7月に制定されました。今年度も各支部において街頭啓発キャンペーンを実施しましたので、その状況を報告します。

### 東部支部

#### 「介護の日」の啓発活動を終えて

今年度の「介護の日」啓発活動は、11月9日午後4時より三島駅北口に東部支部会員に静岡県介護福祉士会メンバーを迎えた総勢約50名にて実施しました。

県老施協石川会長、県老施協中澤常務参加の中で東部支部木下支部長のあいさつに続き、一般社団法人静岡県介護福祉士会の飯田泰子副会長のあいさつを頂き、メインキャラクター「ケアットちゃん」と共に街頭キャンペーンを開始いたしました。

当日は、午後5時に翌日の伊豆市天城地区で行われる全国育樹祭に出席される皇太子殿下が三島駅に到着されるということで、物々しい警備の中、道行く方々一人ひとりに「介護の日」についてピーアールいたしました。高齢化に伴い介護が身近になってきたのか「介護の日」のキャンペーングッズも皆さん喜んで受取っていただき、なかには足を止めて介護のことを聞いてくださる方もいました。今後も何らかの形でこのような活動も継続していくことが必要であると感じました。

東部地区においては、支部全体の「介護の日」の活動はこのキャンペーンで終了いたしましたが、各地区での活動がありましたので紹介させていただきます。伊豆市・伊豆の国市ではそれぞれの特別養護老人ホーム連絡協議会の6施設が協力して、11月17日に伊豆市生きいきプラザ大ホールにて「介護の日記念イベント」を開催いたしました。各デイサービスの作品展示、介護機器や介護食の展示、地域包括支援センターによる介護相談、メイン事業として講師に三好春樹氏を招き



「認知症のケア、生活リハビリ」と題した講演をしていただき、市民や福祉関係者およそ300名の来場をいただき「介護の日」の啓発活動を行いました。また、沼津地区では市内の特別養護老人ホーム連絡協議会10施設から職員30名が参加して11月12日午後3時30分より1時間程度沼津駅北口にて「介護の日」のキャンペーングッズを配布し、啓発活動を行いました。

このような活動が「介護」を理解していただく一環になればと期待しています。

(記 特別養護老人ホーム

伊豆中央ケアセンター 施設長 堀内和憲)



### 中部支部

#### 「介護の日」街頭キャンペーンを終えて

11月11日「いい日、いい日」を介護の日と決めて5年になりました。

静岡県老施協のキャンペーンも5回目となりました。

今年も中部支部では11月9日に、キャラクター「ケアットちゃん」と共に各施設の施設長他多くの職員が参加し、街頭アピールを行いました。介護福祉士会の方々の協力も得て盛大に実施されました。





JR静岡駅地下コンコースでのイベントでも、年を重ねるごとに「介護」に対する関心が深まっているように感じました。

介護に関する事業所やサービスが増えてきて、日頃目にする機会が多くなってきていることも一因と思われます。

子供の時には幼稚園に入る様に、年をとるとデイサービスやショートステイを使うことが、ごく普通と考える人が増えてきたのでしょうか。

誰でも年はとります。そして、人のお世話になる時は当然の様にやって来ます。高齢社会になり、親や配偶者等の介護は個人の問題ではなく、社会全体で考えるものだと認知されつつあります。

我々高齢者福祉に携わる者は、介護のあるべき姿を日々検証し、再考しなくてはと思います。

「社会福祉法人の運営する介護サービスはやはり安心で信頼がおける」と言ってもらえる様努力することが肝要と「介護の日」にあらためて強く感じました。

(記 ケアハウスレインボー瀬名  
施設長 鈴木こづえ)

## 西部支部

### 『11月11日は介護の日です』

介護太郎君はお父さんとお母さんの3人暮らしです。

「今日、浜松駅から職場に向かう途中でこんなメッシュケースとバンドエイドもらつたけど。」

「11月11日は介護の日って書いてあるわ。そんな日があるんだ。お父さん、パソコンで詳しく調べてみよ。」

「厚生労働省のホームページに載ってるぞ。『家族、社会、みんなで『介護』を支えよう。11月11日は『介護の日』』。『いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう』を念頭に『いい日、いい日』にかけて覚えやすく、親しみやすい語呂合わせで11月11日を介護の日

とした、と書いてある。平成20年に決められたらしい。」

「この前、新聞に日本の高齢化率が23.3%って書いてあったよ。また団塊の世代が65歳や75歳になると、高齢者の政策はますます必要になって来るよね。認知症の方も増えてるようだし。」

「介護も他人事ではなく、身近な問題になって来ているってことね。」

「そう言えば、この頃、田舎の親父とおふくろに連絡とってないなあ。元気にしてると思うけど。」

「父さん、俺、じいちゃんとばあちゃんにメールしてみるよ。」



11月11日の『介護の日』に合わせて、老施協では今年度も東・中・西でそれぞれ街頭啓蒙キャンペーンを行いました。西部支部では、11月9日(金)に浜松駅前で、県介護福祉士会の皆様のご協力を得て、老施協の役員、会員施設職員とあわせ、都合70名程でバンドエイドの入ったメッシュケースを配りました。また、ケアットちゃんも参加し、活躍してくれました。10時スタートでしたが、2400個程用意したメッシュケースは20分程度で配布終了しました。

メッシュケースを受け取って下さった方が、ご家庭に帰り、先に書いたような会話をして頂けるきっかけになれば嬉しく思います。

(記 特別養護老人ホーム百々山  
施設長 岩沢光高)



## 施設名称の由来と想い

### 「燐光」

特別養護老人ホーム 燐光

施設長 北野智照

社会福祉法人新和会の運営する特別養護老人ホーム 燐光は、平成11年4月に新居町新居に開設し、以来13年になります。

新居町に特別養護老人ホーム、デイサービス、ヘルパー、在宅支援、居宅支援を設置、舞阪町、雄踏町にもデイサービスセンターを設置しました。位地としては、静岡県の西部、浜名湖が遠州灘につながる今切口の西岸に本部を建設、浜名郡三町に特別養護老人ホームや、デイサービスセンターもなく、三町の要望で建設の話が進み三町合同の建設委員会が設置され仮名称として「はまなの園」としましたが、広く住民に公募したところ三幸の園など三の字がついた名前が多く三町住民の期待の大きさを感じました。最終的には理事会で「燐光」と決め、浜名湖の地を「燐燐と照らそう」となり、園をとりました。

一年目は措置、12年度より介護保険となり、運営面では措置から契約となり、利用者本位の介護で介護の質が問われるが、施設は従来型、介護保険になってしまっても

介護方法は利用者中心ではなく時間と業務に追われる介護であつたため、職員よりもっと利用者と深く関わりたいと積極的な意見がでて、10年を期に第二創成期と銘打って共育（教育）委員会を発足させ、共育委員会を中心に9つの委員会を立ち上げ職員の意識改革をして定員55名とショートステイを含め3チームに分けて個人ケアを目指しています。身体拘束ゼロ宣言をはじめオムツゼロ、技術の向上として新しいトランスファー技術を取り入れました。今後は各委員会の隆盛と、介護支援専門員の作成する施設サービス計画を基に介護を進め、利用者が満足できる施設として、名前のごとく浜名湖の地で燐燐と照らす施設になるよう頑張っています。



### シリーズリレーローム

### 創設・これからの地域における施設のあり方

特別養護老人ホーム 梓の里

施設長 片山 康

昭和63年頃まで賀茂郡（下田市、河津町、西伊豆町・賀茂村、東伊豆町、松崎町、南伊豆町）には特別養護老人ホームはなく、地域外の施設利用、また病院、家庭での介護を余儀なくされておりましたが、平成元年に地域の方々から、自然発的に「ぜひ地元に施設を」との強い要望をいただき、下田駅から西方12キロ、田園風景が見える緑濃い静かな環境に包まれた場所に、賀茂地域初の特別養護老人ホーム『梓の里』が誕生しました。以来、諸先輩の方々の強い意志の元で下田市、賀茂郡に於ける特養の先駆者として地域のニーズや在宅福祉サービスの要請に応えるべく、デイサービス、ホームヘルプサービス等の事業を展開し、在宅介護を支えてまいりました。

しかしながら、昨今、開設時からの建物・設備も歳月とともに老朽化が著しく、今後、ご利用者のQOLの向上、安全安心な居住環境・業務の効率化等に必要とされる環境の維持、改善が大きな課題となってきております。

また下田市をめぐる高齢者の環境は大きく変化しております。平成26年には団塊の世代がいよいよシルバー世代の仲間入りをし、高齢化（36.9%）に拍車をかける状況になっております。また自宅での生活が困難な独り暮らしや高齢

夫婦のみの世帯が多くなっており、このような状況の中、当施設も時代の推移に即応した取り組みが重要となっております。

梓の里では「総合的な福祉サービスの提供」という設立趣旨のもと、核家族化・少子高齢化による独居の要介護者・特養待機者へのサポートを今後の重点課題ととらえて、将来の制度変化に応じた事業展開を視野に入れた地域包括ケアシステムの構築を目指しています。そのためには当施設を含めた法人の資源を拠点とし、地域の要介護者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できるように、下田市とその関係機関（地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員、NPO、介護事業者等）との連携を図り、地域密着型サービスと呼ばれる小規模多機能型居宅介護事業を開拓していくことが必要と考えております。

併せて、施設が目標とする地域福祉サービスの質の向上を図るために、職員一人一人について基本姿勢に沿った教育を継続し、また制度、サービスの調査研究を推進することで、地域社会の充実に貢献できるものと信じております。



●施設のユニーク行事●

## 『昔懐かしい石焼きいも』

特別養護老人ホーム なごみ

施設長 小泉 雅則

「やきいも～、いしやきいも～」寒い季節にこの声が聞こえてくると百円玉を数枚握り締め、外に飛び出していきました。もう、数十年も前の話ですが、今でも焼きいもは、子供からお年寄りまで皆が大好きな食べ物です。施設の中でも手軽に昔を思い出しながら美味しく焼きいもを食べて頂くため、数年前に石焼きいも機を購入しました。この機械、誰が作っても美味しく作れるだけでなく移動が簡単で、デイサービス、施設入所者のユニットごとのオヤツに対応が可能です。もちろん美味しく食べるためには雰囲気作りも大事な事で、機械と一緒に昔ながらの焼きいもの売り声CDも購入し、おいもが焼けると同時にその独特な売り声を流していきます。あたり一面に漂う甘い香りと「やきいも～」の声に誘われて施設利用者がぞくぞくと集まっています。中には焼きあがる遙か前から並んでいる方も…「おいも屋さん、私にも1つくれる?」「今日のおいもは徳島名産のなると金時、おいしいよ

～」なんて会話をしながら新聞紙で作った袋に入れて手渡すと、嬉しそうに近くのベンチに座りホクホクのお芋をほおばっています。寒い季節になるとこんな光景が、グループホーム、デイサービス、施設ユニット各所で見受けられます。ところがこの焼きいも機、寒い季節だけではなく、夏にも大活躍なんです。暑い季節にはさつまいもではなくジャガイモを焼き、十字に切ってバターを置けば美味しいじゃがバターの出来上がり。デイサービスのおやつにおいては、やきいもより、じゃがバターの方が遙かに人気があるのです。ふかしたおいもで作ったじゃがバターとは一味違います。1個のジャガイモが3時のオヤツに丁度よい量で、皆さん残さずきれいに食べてくれます。これからは全国からいろいろな種類のおいもを購入し、デイサービスで「食べ比べランキング」を発表するなんて企画も面白いかもしれませんね。



## 活動報告

### 【老施協】

★24年10月17日県（福祉長寿局）との懇談会について、「県政さわやかタウンミーティング」を兼ねて県総合社会福祉会館にて開催、老施協からの「質問・要望等」を中心に意見交換

★24年11月9日「介護の日啓発事業として、東部（JR三島駅）、中部（JR静岡駅）、西部（JR浜松駅）において、県介護福祉士会と協働して、それぞれ街頭啓発キャンペーンを実施

★理事会 24年12月10日、全国老施協代議員選挙等について協議

### 【企画経営委員会】

★24年9月12日、県との懇談会における要望事項等の協議・取りまとめ、キャリアパス制度にかかる概況調査、しづ老施協35号の編集・校正、36号の企画等について協議

★24年10月29日、アンケート調査実施案、「介護の日」の取組み（街頭啓発活動）、県との懇談会の反省等について協議

### 【研修委員会】

★24年10月22日、介護力向上研修～研究発表Again!～を県総合社会福祉会館において開催105名が受講

★24年11月7日、研究発表支援研修を静岡音楽館において開催、67名が受講

### 【21世紀委員会】

★24年10月3日、県議会厚生委員会を傍聴、施設間交流研修、介護の日街頭啓発活動、異業種講師研修等について協議

★24年10月24日、異業種講師研修を県地震防災センターにおいて開催、42名が受講

### 【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★24年11月30日、第4回研究大会の開催状況及び収支決算（案）報告、第5回大会の企画（案）第6回大会の会場等について協議

### 【養護委員会】

★24年11月27日、県との懇談会の報告、養護の状況報告・情報提供等、現況の課題について協議

### 【特養委員会】

★24年9月25日、クレーム対応研修を県総合社会福祉会館において開催、139名が受講

### 【軽費委員会】

★24年10月26日、施設長・相談員研修を、24年11月27日～28日、施設長視察研修を、24年12月5日、介護職員研修を開催

### 【在宅委員会】

★24年9月7日、在宅サービス研修会のテーマ、グループ分け、進行及びアンケート調査の内容等について協議

★24年12月14日、在宅サービス研修を県総合社会福祉会館において開催、107名が受講

# 新加入施設紹介

平成25年2月現在

ケアハウス

**ケアハウスみどりの風・おかべ**

法人名 社会福祉法人 至誠会  
 開設日 平成24年4月1日  
 (入会申込 平成24年9月1日)  
 施設長 原木 豊  
 所在地 藤枝市岡部町内谷581-8  
 入所定員 42名



特別養護老人ホーム

**すずらん**

法人名 社会福祉法人 博友会  
 開設日 平成24年9月1日  
 (入会申込 平成24年9月1日)  
 施設長 三井 忍  
 所在地 御殿場市上小林西野原1527-19  
 入所定員 150名  
 デイサービス 30名 短期 30名

ケアハウス

**ケアハウスすずらん**

法人名 社会福祉法人 博友会  
 開設日 平成24年9月1日  
 (入会申込 平成24年9月1日)  
 施設長 三枝 みどり  
 所在地 御殿場市上小林西野原1527-19  
 入所定員 100名

特別養護老人ホーム

**羽鳥の森**

法人名 社会福祉法人 珀寿会  
 開設日 平成23年10月11日  
 (入会申込 平成24年10月15日)  
 施設長 根城 隼太  
 所在地 静岡市葵区羽鳥7-6-38  
 入所定員 110名  
 デイサービス 10名 短期 10名

**編集後記**

この号が発行される頃には、新しい政権の下で政治が動き出しています。新しい年に新しい政治。どんな社会も結局は私たちの小さな一票から始まっています。個人のいろんな思いや考えが大きな集団や流れとなって社会を作っています。色々なご病気で投票が出来ない方のためにもこの一票は大切にしなければと思います。 (宮澤)

今年は10月まで暑い日が続き、秋を一気に飛び越えて、季節は忘れず冬支度を始めました。

毎年繰り返されることですが、今年は何かが違うように思えます。東日本大震災の爪痕がそのまま、南海トラフの脅威となつて、今何ができるかを考える時だと思います。遅ればせながら、我が施設も、発電機なるものを設置することができました。

(澤田)

東日本大震災より、地震より津波の方が怖いのと、原発に近い住人は事故があつては困ると不安をつのらせる。南海トラフの発表で、津波避難施設を作つて高いところに逃げる計画や訓練を行う姿を新聞やニュースを見るたび、明日にも地震や津波が来るような衝動に駆られます。車を走らせれば、道路緊急ダイヤルの掲示板も目にします。安心、安全を第一のしっかりした防災計画を立て、静かな暮らしをとり戻すことを願わざにはいられません。 (北野)